

レビュー項目 (事業名)	新技術の活用等による有害鳥獣捕獲狩猟者の育成強化 (有害鳥獣捕獲狩猟者育成プロジェクト)				部(局)	環境部	
					所管課	自然鳥獣共生課	
					担当班	被害対策班	
					連絡先	078-362-3463	
開始年度	平成26年度	終了年度	令和8年度	関連計画等			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )    実施主体等 県・市町						
事業目的	・狩猟やジビエに関するイベント、体験会の開催により、狩猟の公益性及び社会的価値を県民にPRするとともに、有害鳥獣捕獲に従事する優秀な担い手を確保・育成する。						
事業概要	市町が実施する銃猟の狩猟体験会等の開催に要する経費の一部を助成する。また、県として有害鳥獣入門講座の運営や熟練狩猟者によるマンツーマン技術指導を通じて人材育成を進め、銃猟の模擬体験が可能なシューティングシミュレーターをイベントなどで活用して免許所持者を確保する。その他、ICTを活用した有害鳥獣捕獲に関する研修会の開催により、効率的な捕獲技術の普及に努める。						
業務フロー	(1) 狩猟のいろはと魅力発見支援事業（旧：シューティングシミュレーター活用事業） 県から兵庫県猟友会へ補助 (2) 狩猟体験会等支援事業 要望（市町）→受付・審査、内示（県）、交付申請（市町）→交付決定（県） (3) 次世代に繋ぐ狩猟出前講座 要望（市町）→受付・審査、内示（県）、交付申請（市町）→交付決定（県） (4) 有害鳥獣捕獲リーダー（カラー）育成研修運営：県から民間コンサルタントへ委託 (5) 有害鳥獣担い手集合研修運営（旧：有害鳥獣捕獲入門講座運営） 県から民間コンサルタントへ委託 (6) 有害鳥獣捕獲鳥獣種別実践研修（旧：有害鳥獣捕獲実践研修） 県で講師を選定して講師謝金で実施 (7) 狩猟研修会（銃猟・わな猟）事業 要望（猟友会支部）→受付・審査、内示（県）、交付申請（猟友会支部）→交付決定（県） (8) わな猟捕獲マンツーマン指導事業：県で講師を選定して講師謝金で実施						
R4レビュー時の外部委員会意見	・狩猟免許取得者に捕獲チームに参加してもらうのには、どこがボトルネックになっているのかを明確にする必要がある。捕獲チームに入った人に入った理由をアンケート調査するなどしてはどうか。 ・アウトカム指標は捕獲入門講座の受講者数、有害鳥獣捕獲班員育成者数とし、アウトプット指標を研修の実施回数とすべき。						
改善結果 <small>（改善状況 取組過程）</small>	・有害鳥獣捕獲入門講座受講者へのアンケート調査（R5実施）の結果、仕事などで多忙であることが捕獲チームに参加できない理由として多かったことから、他事業を活用し、ドローンによる捕獲技術の検証やわなの管理及び見回りの手間が軽減されるICTを活用したスマート獣害対策を実施している。 ・アウトカム指標は有害鳥獣捕獲入門講座の受講者数及び有害鳥獣捕獲班員育成者数とし、アウトプット指標は事業で行う研修の実施回数とする。 ・単なる狩猟者の育成だけでなく、有害鳥獣捕獲班の組織力強化を目的とし、組織の中核となる人材への研修（有害鳥獣捕獲担い手集合研修等）を実施している。						
事業に要するコスト	区 分		4年度決算額	5年度決算額	6年度当初予算額	7年度当初予算額	
	事業費①		10,840千円	11,669千円	9,796千円	10,445千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	9,692千円	9,943千円	6,600千円	6,600千円	
		補助金・交付金	400千円	984千円	1,996千円	2,645千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	748千円	742千円	1,200千円	1,200千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(5,420千円)	(5,834千円)	(4,298千円)	(7,800千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(945千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(5,420千円)	(5,834千円)	(5,498千円)	(1,700千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		12,182千円	11,682千円	9,796千円	10,445千円	
	執行率((①/②)×100)		89.0%	99.9%	100.0%	100.0%	
	人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.5人	従事人員 0.5人	従事人員 0.5人	従事人員 0.5人	
			4,129千円	4,125千円	4,360千円	4,499千円	
職員給与費	a	3,568千円	3,578千円	3,800千円	3,952千円		
	賞与引当金繰入額 b	292千円	297千円	292千円	297千円		
	退職手当引当金繰入額 c	269千円	250千円	269千円	250千円		
総コスト(①+③)		14,969千円	15,794千円	14,156千円	14,944千円		

レビューシート（令和4年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式3

	指標名	区分	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度目標	最終目標【年度】	
評価	成果指標(アウトカム指標①)	目 標	30	30	270	245	30人	
		実績(見込)	22	21	(201)	(245)	【R8年度】	
		(単位当たりコスト)	(680千円)	(752千円)	(70千円)	(61千円)		
		達成率(見込)	73.3%	70.0%	(74.4%)	(100.0%)		
	成果指標(アウトカム指標②)	目 標	40	40	40	40	40人	
		実績(見込)	23	29	(24)	(40)	【R8年度】	
		(単位当たりコスト)	(651千円)	(545千円)	(590千円)	(374千円)		
		達成率(見込)	57.5%	72.5%	(60.0%)	(100.0%)		
	評価	成果指標(アウトカム指標③)	目 標					
			実績(見込)					
			(単位当たりコスト)	-	-	-	-	
			達成率(見込)	-	-	-	-	
活動指標(アウトプット指標①)		目 標	7	7	19	21	29回	
		実績(見込)	7	7	(17)	(21)	【R8年度】	
		(単位当たりコスト)	(2,138千円)	(2,256千円)	(833千円)	(712千円)		
		達成率(見込)	100.0%	100.0%	(89.5%)	(100.0%)		
指標		活動指標(アウトプット指標②)	目 標	320	320	240	240	240回
			実績(見込)	110	110	(117)	(240)	【R8年度】
			(単位当たりコスト)	(136千円)	(144千円)	(121千円)	(62千円)	
			達成率(見込)	34.4%	34.4%	(48.8%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標③)	目 標	5	5	5	5	5市町	
		実績(見込)	4	7	(7)	(5)	【R8年度】	
		(単位当たりコスト)	(3,742千円)	(2,256千円)	(2,022千円)	(2,989千円)		
		達成率(見込)	80.0%	140.0%	(140.0%)	(100.0%)		
	目標	終期設定	有 ( )					無
		改善基準						
	自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
		<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か</li> <li>・民間での事業実施は見込めない事業か</li> <li>・指標・目標設定は適切か</li> <li>・活動実績は十分か</li> <li>・想定された成果を達成しているか など</li> </ul> <p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改革に取り組んでいるか</li> <li>・コスト削減の工夫を行っているか</li> <li>・ICTや民間活力は活用しているか</li> <li>・受益者負担は適正か</li> <li>・財源確保の工夫は行っているか など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカやイノシシなどの野生動物による農林業被害が多発していることから、有害鳥獣捕獲の担い手となる狩猟者の確保は県民ニーズを踏まえた事業である。</li> <li>・有害鳥獣捕獲班員の育成に係る研修は、開催時期が猟期と重なっているため、講師の確保が障壁となり目標を下回る開催回数となった。</li> <li>・有害鳥獣捕獲入門講座は、修了者に対してアンケートやフォローアップを行い、効果的なカリキュラムとなるよう努めている。</li> <li>・R6に兵庫県総合射撃場が開設したため、射撃場を活用した研修を実施することで、実践的な捕獲技術の習得に努めている。</li> </ul>		<p>C : やや満足はできない実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狩猟免許所持者は増加しており、年齢層にも若返りが見られるほか、R6に県立総合射撃場が開設し、狩猟者(初心者)の育成機会は増加。</li> <li>・一方で、有害鳥獣捕獲班員育成に係る研修は、開催回数が目標を下回ったことから受講者数を確保できなかった。</li> </ul>			
評価	課題・今後の方向性							
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
評価	説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の開催時期が猟期と重なっていることが原因であるため、時期の変更や回数の見直しにより、受講者の確保に努める。</li> <li>・特に若い狩猟者に対し、有害鳥獣捕獲の取組について周知徹底し、新たな担い手の確保と熟練者からの技術継承を引き続き実施していく。</li> </ul>							
	外部委員会意見	○委員会の意見を踏まえ、アウトカム・アウトプット指標の見直しや、捕獲入門講座受講者へのアンケート調査を実施し、参加障壁の要因分析を行った点は評価できる。 ○また、ICT等の新技術を活用した研修の導入や、若年層への周知・技術継承の取組など、改善に向けた具体的な施策が展開されている。今後は、スマート獣害対策の効果測定の手法についても検討していくことが望まれる。 ○一方で、研修会の開催時期が猟期と重なることによる講師確保の困難や、受講者数の確保が課題として残っており、今後は開催時期の調整や研修内容の柔軟化など、さらなる改善が求められる。引き続き、新たな担い手の確保と、地域に根差した捕獲体制の強化に向けた取組を期待する。						